

## 第6回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2022（令和4）年10月4日

場所：宇美町役場2階大会議室（左）

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 議題
  - (1) 第7次総合計画 基本構想（資料P13～18）について
  - (2) 序論（資料P3～12）について
  - (3) 前期実践計画1～3（資料P19～45）について
  - (4) 前期実践計画4～6の質疑について
4. 閉 会

### 1. ～2. 割愛

---

### 3. 議題

---

#### (1)第7次総合計画 基本構想（資料P13～18）について

- 14ページの「このまちがいい。わたしたちの誇り 宇美」、これについて全体のこのイメージは「ともに作りましょう」というイメージがとても強い。だから、「このまちがいい。ともに作りたいまち 宇美」とか、これからの社会というのはやはり共働でないとうまくいかないと思う。それで、「このまちがいい。」というのは、第三者的にここは条件がそろっている、だから「このまちでいい」ということではなく、「どんなにある程度環境的に恵まれていなくても一緒に作りたい」という声を大きくしていかないと宇美町は厳しくなっていくのかと思った。（委員）
  - 非常に貴重なご意見である。もう出来上がっているものというよりは、これから一緒に作り上げていくというニュアンスをもう少し出していったほうがいいのではないかというご意見かと思う。（会長）
  - 全く賛成である。これから先、やはり町民の方々の行政への参画やそういったものを促すような言葉が入ってくると、話はかなり変わるのではないか。無関心な方々にもしっかり町に関心を持っていただき、できることを一緒にやろうというイメージが伝わってくる。共働というものをしっかり書いてくるともっとよくなるのではないかと思う。（委員）
  - 第6次と理念が全然違うわけだが、そのつながりはどうなっているのか。（委員）
  - そこはその前の計画との関係性や位置付けというのはどのようにしているか。（会長）
- 前の総合計画は、皆さんにご意見をいただいてともにつくるまちというのが大きく打ち出されていたと思う。今回の場合、この「私たちの誇り」という言葉が、いろいろな町民の方のキーワード的

な言葉だったので、アンケートから「誇り」という言葉を使ったというのが1つの経緯になっている。そして基本目標の部分で、これまでの計画を引き継いだとても大事なものだと思っていて、この中の基本目標⑥の部分にみんなが知恵と力を合わせるまちということで、行政と町民がパートナーとなり共働でまちの魅力を生み出すまちということで、そういった視点を基本目標部分にきちんと受け継ぎながら、町民の方ともきちんと共働で行政と町民の方が一緒にまちづくりをしていくというのは、将来像の中というよりもこの基本目標の中の具体的な目標の中の1つとして今回謳っていただいているという形になる。(事務局)

- 皆さんのご意見からすると、6次との連動性があるということであれば、むしろ継承する形でこのタイトルに「ともにつくるまち 宇美」というような形で入れ込んでもいいのではないかと。あるいは、さらにいえば6番目にそれを記するという順番が、もしかしたらこれは問題で、むしろそうであれば1番目に持ってくるというほうが適切なかもしれないという感じかと思う。今のところはお三方のご意見からすると、そういった「わたしたちの誇り」というのはいいのだけれども、この部分に「ともにつくるまち」というような共働のニュアンスをもっと前面に出した方がいいのではないかとのご意見かと思う。(会長)
- 前は行政的な文章が多かったが、今回は非常に素晴らしくなっているかと思う。参画という意味では、町民の方々のという意味では、できれば一緒にまちづくりに参画しませんか、一緒にまちを作っていくまいかという文言(を入れて)はどうかと思う。(委員)
- 説明文に「すべての人がこのまちがいいと思えるようなまちをつくりまします」と書いてあるが、その「まちをみんなでつくる」という、その言葉がやはり必要だということか。行政が、町民の方と一緒にみんなが一丸だと思えるようなそういう文章、それから説明文のほうも変えていただければというご意見かと思う。ごもっともである。

将来像については、「わたしたちの誇り」というのは説明文の中に出てくるし、むしろそれよりもみんなで作るまちであるとかみんなが作るまち、こういった共働の言葉をここに入れ替えたほうがいいのではないかとのご意見かと思っている。それに沿って説明文のほうにももう少しみんなで作っていくというニュアンスの言葉を入れていただきたいというご要望かと思う。(会長)
- 私が気になっているのは基本目標とこの将来像が一致しているのかということである。「このまちがいい。」という言葉の対義語などというのは、「このまちでいい。」つまり、このまちも悪くないという感じのまちづくりが「このまちでいい。」である。それに対して「このまちがいい。」というのはかなりとんがっているイメージである。そうすると、例えば子育てと学びをみんなで応援するまちであるとかすこやかに暮らせるまち、安全で安心して暮らせるまち、環境にやさしく快適に暮らせるまちとは、もちろん一定のラインは、最低限のラインはクリアしなければいけないが、「このまちがいい。」というニュアンスがもっと出てくるようなとんがった内容がそれぞれにかぶさってこないか、一貫性がないのかという感じがしている。

基本目標①の子育てと学びといった時に、ここでいう子育てと学びというのはいわゆる競争的な意味での学びなのか、もっといえば宇美町ならではの学びみたいなもの、宇美町で育ったからこそこういう子ども達が生まれていくという、そういう宇美町ならではの教育みたいなものが全

面に出たほうがいいだろう。

また、すこやかに暮らせるといった時に、ここでは例えば 16 ページを拝見すると「医療・保健・福祉サービスの充実を図りながら、町民がみずから生活習慣の改善に取り組む健康づくりのまちを目指します」とあるが、せっかく 14 ページで「あたたかい「人と人とのつながり」それは、町のすばらしい宝です。」ときているわけだから、もっと人と人とのつながりを通じて、高齢者をはじめみんなが輝いていくような、そしてつながりながら何かやっていくような、そういうことを通じて結果として健康になっていくとうような、例えばそういうものもあっていいだろう。

この将来像の部分がかかなりよくなったのに対して、「このまちがいい。」といった時のそれぞれの柱の「このまちがいい。」のイメージ、それがここではぼんやりとしてしまっ、せっかく将来像がよくなったのにその下の部分はこれまでどおりという感じが、私はしてしまう。もちろん表現の仕方は 16 ページ、17 ページ、18 ページ、ずいぶん柔らかくなって、イメージとしてはずいぶん改善されたとは思っている。もう少し、せっかくのこの将来像が横串となって全体の性格を方向付けるような形でまとめていただくといいのではないかという気が個人的にはしている。

(会長)

- 14 ページで宇美町に生まれ育った人、移り住んだ人、移り住む人というところの項目があるが、住んではいないが働きに来る人もいれば、また宇美商業などに通いに来ている子達もいるし、また今後安産祈願にたくさんの人達が訪れてくるというのは町外から来られている人達もいるし、観光に来られる人もたくさんいる。もう少し、働きに来る人、通う子、また宇美町に観光に来る人達というところも入れられたらいいと思った。(委員)
- 貴重なご意見かと思う。きりがない部分があると思うが、もう少し確かに広げて、特に働く人や学校に通う人などそういう人は特に入れてもいいのではないかという気が、観光も含めて。あまりだらだらしない形で、場合によっては幾つか並べて最後は……という形で他にもありますよというニュアンスを醸し出しながら、ちょっと余白を残しておくという形で対応していただければと思う。(会長)
- 16 ページの子育てと学びのところ、①だが、学びは偏差値的な学びと、体験的な学びのほうかと思う。体験という言葉しか浮かばないが、学びがもう少し広がるような、体験をベースにしたフェスタやそういうものに力を入れてきたので、そこをイメージできるような「学びや体験」と入れてしまうのか、何か学びだけではない言葉もあっていいのではないか。体を動かしたり、いろいろな人から伝授をしてもらった遊びなど、学校でも体験あそびなどいろいろな授業の中で習うこともあるので、学びも偏差値だけではない学びがイメージできる言葉を入れていくのも検討してほしい。(副会長)
- 重要なご指摘である。この学びは多分勉強ではない。学びといった時に私がイメージするのは、よく何々を知ることである。何々について知る。例えばスキーについて、スキーがどういった歴史でどういう形で発展してきたか、これはスキーについて知っていることである。だが、これらのことを知ったとしてもスキーをやっていないならばスキーを何も分かったことにならない。やはり私ども、何々について学ぶことというのは大変多く、この文では勉強と結構結び付けてくるが、やはり何々を学ぶというのは経験・体験、自分でやってみるといういろいろな機会が

宇美町にあふれているのであれば、むしろそういったことを学びの中核に、もっときちんと明確に位置付けていく。今のご意見はやはり学びという言葉の意味合いをもっと明確に出していく。そこで1つの宇美町の売りを、セールスポイントをきちんと示していくということなのかと思った次第である。ご検討をお願いできればと思う。(会長)

- 14 ページ、すごくよく変わっていて、よくここまで短い時間でされたなというのを感じつつ、前のものと見比べながら見ていった時に基本目標がどのように変わったのかと思って見たら変わっていなかった。そこがすごく、あとはすごく練っておられるのに、どの言葉をどう変えたいかというのがまだ私自身もこの言葉はOKというのはあまり思い浮かばないが、期待してこの部分を見た時には前とほぼ変わってなかったのが惜しいと思った。他の市町村の総合計画などもネットでいろいろ見てみたが、やはり宇美町だから子育てを一番に持ってこられているのだということが適当なのだったと思うので、やはりそれをうまく表現することによって、あとの②以降も変わっていくのかと思った。(委員)

- 私も全く同意見で、本当に今回すごく努力して変えていただいて、やればできるじゃないかと、恐縮だが本当にそんなことを思うくらい今回すごく頑張っていた。ただ、以前から申しあげているかと思うが、これまでの全国各地の総合計画は結局キャッチフレーズはかっこいいことが書かれているけれども、今やっている個別の事務事業をパッケージング化して柱にまとめて、結局どのような計画にするかというあまり変わらない。でもそれでは困るので、今回の総合計画ではまずは将来像としてはその将来像を実現するためにこの基本目標の柱があって、その柱を実現するために事務事業の見直しを全面的に図っていただく。

このような感じで順番を変えていただく。今やっていることから出発するのではなく、あるべき姿から今の行政のあり方を見直していただくという仕掛けとして、今回の総合計画がある。そういう意味でやっと今回将来像の部分がわれわれがイメージしてきたものはかなり近付いてきた。細かいところもフィットしている。あとはやはりこの基本目標の部分をもう1回組み替え直していただいて、そしてさらには最終的に事務事業の見直しという方向にさせていただく。そのためにもまずはこの基本目標の部分をもう少し横串を刺して将来像に基づいて構築し直していただくということが大事なのかという気がしている。(会長)

- 基本目標①「子育てと学びをみんなで応援するまち」となっているが、「子育て」を「子どもの育ち」というふうに変えてもいいのかと思う。大人が育てるというイメージがすごくあると思うが、子どもはみずから育つ力を持っているということが印象に残る。こちらの下のほうにも「子どもの育ちに関わる全ての人」と書いてあるので、どちらかという「子どもの育ちと学びをみんなで応援するまち」。学びのところに学び・体験と入れてもいいのかもしれないが、このタイトルから子どもの育ちのほうがしっくりくると思った。(副会長)

- 「育ち」という形に変えていく。日頃学生を教えていると思うが、子ども達というか、教えたり応援するというの、教えることでこちらも学びになる。ここでいう学びは子ども達だけの学びではなく、本当にそれを応援するみんなが学んでいくことにもつながっていくので、子育てと言ってしまうと親的な感じになってしまうが、むしろそこを主体はやはり子どもときちんと位置付けたうえで、それを応援することによってみんなも学んでいくし、みんなが成長していくという

ようなニュアンスにさせていただくといいかという感じがした。(会長)

- 15 ページは皆さんが言ったようにどこの市町村を見ても同じである。だから宇美町のこだわりやこれまでの積み重ね、目指すものをアピールするために少し文言を付け加えて、例えば安全で安心、それは今食育や健康という言葉を入れてもいいのではないか。前回も言ったが、日本人の2人に1人ががんで死んでいる。それが大変だといったところ、やはり食育や、①のところでこれはみんな学校も入っているが、ふるさとを愛しという言葉がある。学校の取り組みのほうがまちへの意気込みを表している。やはり、まちのほうにもっと子育てへの意気込みを入れるような文言があるといいと思った。(委員)
- やはりその意気込みや、まさに宇美町ならではのというのが本当でない、入っていないので出させていただく。食育という話が出たが、食育という言葉から私が非常に感じることは単に健康であればいいというだけではなく、そこに質的な豊かさまで含めた、単に病気にならなければいいということでもない、より深い……ふるさとの味やそういうものである。だから単に安全・安心というだけだとプラマイゼロというようなイメージだが、もっとその中に豊かさが含まれてくるような、その中に宇美町の特徴が出てくるような表現にさせていただければというご意見かと理解した。(会長)
- 「このまちがいい。」という表記がある。私の勝手なあれだが、「まちがい」という字がぱっと目に入ってくる、視覚的に。ここに「、」か何か「このまちが、いい」というような、そこを強調するようにしてほしい。(委員)
- もしくは「まち」という字の色を変えられるのだったら。(副会長)
- そういう作戦もある。今2つ挙げたので、このまちがの後に句点を入れていただくというパターンと、まちの色を何色か工夫していただいてそれをお出しいただけるか。実際見てみて話したい。貴重な、実は結構重要なポイントであった。(会長)
- ➔ 基本構想だが、まちとして今回確認させていただきたかったのは、イメージや方向性は、町民目線といったものをすごくイメージして書いているつもりだが、一応方向性としてはこの形でよいか。(事務局)
- 方向性は分からないが、作りとしては皆ずいぶん改善できたと思っていると思う。将来像についても大体これでいいだろう。ただやはり基本目標の部分が他と対応できていないのではないかということがご意見で、ここをもう少し「このまちがいい。 宇美」というその部分を感じられるような、柱だけを見ても宇美町らしいと、こういった方向に持っていこうとしているのだということが分かるようなものにしてほしい。これがまた皆さんの総意だったのではないかという気がしている。(会長)

(2) 序論(資料 P3~12)について

- 細かいところだが、7 ページに情報化・デジタル化の進展というところがあって、宇美町でもキャッシュレスの推進に取り組んでいる。キャッシュレスの進展といった言葉が入ってくると、宇美町としてキャッシュレス推進に取り組むイメージも湧いてくるのかということが考えられるのではないかと思う。(委員)

- 9 ページの宇美町の地図が緑のべた塗りで良くない。例えば山林地域と市街地を分けて色づけるとか、あと大事なものは道の色づけしてほしい。重要な県道は色を別にして町道と分けて、県道をしっかり整備してもらうためにといったところもイメージ付けられたらいいと思う。あと、志免宇美線を入れているが現在通っているところは破線でいいと思う。破線をちょっと入れてこれから志免宇美線はこのように伸びていくといったイメージが入ってくると、宇美町の特性としてでてくるのではないかと思う。  
最後に一番右下のところ、国指定史跡や日本遺産など貴重な歴史文化財のところに「豊かな観光資源」という言葉を入れてほしい。観光資源が、せっかく豊かな資源があるのにそこがまだ今まで生かされていないということがあるので、そういった観光資源としてはこれらのものがしっかりあると……。最後に宇美八幡宮。子育て・教育のところに宇美八幡宮という言葉が書いてあるが、文化財の中に宇美八幡宮、観光資源の中に宇美八幡宮があるということが見えてくると、町としてもう少しははっきりしてくるかと思う。(委員)
- 幾つかご指摘いただいたが、これは特に色の部分は私も少し気になっているところで、地図もそうだが例えば 11 ページの町民アンケートのグラフなどはブルーである。やはりこれはもっと補色があったほうがよい。ブルーだったら少し茶色系というかもっと明るいオレンジ系ではないが、見やすさはもう少し意識していただいたほうがよろしいのかという気がした。あと、個別のご指摘は踏まえていただければと思う。(会長)
- 6 ページの地域コミュニティの重要性の高まりのところ、例えばやはり住民の参画意識の高まりや未来を展望するうえで大事なキーワードを入れてほしい。それから一番上の少子高齢化のところだが、教育で加速しているのが子どもの貧困化である。その辺りについても書いておいたほうがいいのかと、そういった貧困等と、暮らしたい・暮らしたくないというのは関連しているので、現状をここに反映させることによって今後町の施策が生きてくるのもあると思う。(委員)
- 8 ページと 9 ページ、これはまちの誇りと関連するところだと思う。宇美町のことを知らない人が、ホームページか何かでこれを見た時に宇美町に行きたくなるようなものを作ったほうがいいと思う。福岡市や空港に近い恵まれた立地条件、交通機関だけでなく、文化資産、文化遺産についてもやはり入れ込む。近隣に大学が多いだとか博物館が多いだとか、これを見るだけでは宇美町というのはまちの中には博物館は資料館はないけれども、宇美町に行けばそういったところの関連を持てるというような形で、豊かな宇美町のイメージを与えるような形がいいのかということも思った。それから、子育て・教育のところを見てほしいが文末にもう少し体言止めではなく何々ですといった言葉で表現したほうが一般の方は分かりやすいのかと思ったので、参考にしてもらいたいと思う。(委員)
- 11 ページのまちへの愛着度のところに愛着を感じていないとかどちらともいえない、この数値が 40% がある。どちらかというとな満足の方が 40% いる。この 40% の方の意識を反転させるような施策というか、そういった視点が後々出てきたらいいのかと思う。40% といえば高いと思う。近隣の総合計画を見ても、80%~90% の市町村もある。だからこの 40% の方の意識を変えるような仕方をしていかないと、あまり誇りを持つような形にはならないのかと思った。(委員)

- 非常に重要なご指摘だったと思う。特に、私は伺っていてそうだなと思ったのが、6ページの背景のところというのは、本当はこの基本目標と連動していないとおかしい。やはりこういう社会情勢があって、だからこういった基本目標を立てていくのだという感じで、もっと基本目標に掲げていくようなことが背景というのは書いておいたほうがいい。ところが、一般的な内容になってしまっているの、基本目標との関連性、もっと言えば計画との関連性が見にくくなっているような印象を受けた。

定住意向で4割が住みたいと答えてはいないという、これは重たいことで、やはり今回の考え方としては、ここを見ると利便性が強調されていたりするけれども、不便であっても「このまちがいい。」という、不便性やそういうことではなく「このまちが」という個性を出していく。その時にやはりワクワク感というか。この町に来たら福岡とは違うワクワク感や幸せ感、幸福感のようなものが描き出せればいいと思う。基本目標の⑥みんなが知恵と力を合わせるまちという部分で、ここへ何かワクワク感が出てくるような、それこそ若者達がいろいろなことが都心部から遊びに来て、そこでいろいろな新しい動きをしたり、そこでどんどんカフェやパン屋さんなどいろいろなものが出てきて、そこがたまり場になってというような新しい動きが生まれてきたりと、そういう次から次へといろいろな取組が自主的に住民から動いていくというような、宇美町というのはそういうポテンシャルがあるはずだと思っている。計画ではぜひそういったものが生み出されていくような足掛かりを付けてもらえるといいと個人的には思っている次第である。(会長)

- 12ページは羅列的に見えるので、世代ごとに、若い世代と年配の人が集まれば、願いや要望が違うものである。見つけやすくなることによって見やすくなるし、それぞれの世代の宇美町に対するイメージがここで掴めるのかというふうに思った。(委員)

- ぱっと見た時の見やすさといったら、今見やすいかといわれると見やすくない。本当は、町民の思いや意見のところに環境にやさしいまちにだとか高齢者が暮らしやすいまちなど、これはやはり当たり前のことなので改めて言うまでもなく、むしろこれでいうと宇美町のいいところの「慌ただしくない時の流れ」というキーワードが出てきているが、例えばワークショップをする時にこういう言葉が出てきた時に「これはいい」となる。そうか、このよさというのはやはりそこにあって、観光地を入れ込んでいきたいといった話が出ているが、観光地もいいがそのようにパッケージングしながらイメージを作り出していくのか。神社仏閣で珍しいものだと1回来ておしまいになってしまうが、そこも例えば宇美八幡宮で、川上委員がおっしゃっていたが木があって木陰があってと、そこに歴史的に重みがある場所でだけどそこで皆が安らかに過ごすことができ時間がゆっくり流れていく。つまり、都会に行くと本当に時間の流れが速くて困るが、田舎に行けば行くほど1日とはこれほど長かったかと思ったりするが、宇美町いわゆる中間地というか、福岡や東京のように速くない。そこが実は重要なポイントで、こういったものを1つのキーワードにしながら観光名所の物語性を作っていくという、多分欠けているのは物語である。個人的にはこの町民の思いや意見に関して言えば、物語性につながっていくようなキーワードがもっとピックアップされたほうがよくて、あれもこれもと全部入れなくてもいいのではないかと、個人的には僕は思ったりしている。

田畑の風景というものが、新しい人のつながりというふうに見ていけば1つの観光資源になる。多様なご意見があろうかと思うが、ここはもう少し見やすくするということと、あとはやはりご

意見として年齢によって意見があるということ、出てくる人物を変えてみて違いというものを表現してみるだとか、工夫の仕方はいろいろあると思うのでご検討をお願いしたい。(会長)

- 9 ページの子育て・教育のところの3つ目の丸だが、子育てサークルから発展したと書いてあるが、これは子育てサークルというか子育て支援グループなので、子育てサークル等という文字を入れていただくと、支援グループまで入る。支援グループ、育児サークルでもいいが、検討してほしい。(副会長)
  - 子育て・教育などでいうと、一番最初に宇美八幡宮がくるのはどうなのかという気がする。こういった、あってもいいが、やはり売りとして宇美町で子育てや教育をすることに意味があるということをしてPRしたいわけだから、そうするとこの子育て支援センターゆうゆうというのが売りになると思う、特徴があるから。切れ目ない支援体制、もう少し特徴を示した方がいい。(会長)
  - 色の使い方、例えば 15 ページのところの「このまちがいい。」と書いてある。20 ページになると色が変わっている。ある程度ここは色を変えないようにと思う。(委員)
  - そこはもう 1 回気を付けていただいて、全体的に配色は課題が大きいかという感じがするので、配色の統一感、その部分をぜひ気を付けてやっていただければと思う。(会長)
- (3) 前期実践計画 1~3 (資料 P19~45) について
- 24、25 ページの、やはりこの基本計画の中の一番重要なところ、①のところだが、その中で町が使っているスローガンというのは「子どもを安心して生み育てるまち宇美」、これが一番のまちのスローガンである。それなのにこの中に子育て施策の目玉となるような施策というのが打ち出されていないというのが一番問題ではないかと思う。これほど子育てしやすい宇美町ですよと言いつつも、実はあまりやっていない。兵庫県の明石市のような施策を宇美町でそのまま実践しようというのはなかなか難しいと思うが、目玉となる施策がきちんと方向付け、明示するというの大事ではないかと思っている、例えば子ども達の医療費ゼロのまちを目指すなど。一部助成している、小・中学生の医療費というのは。これにあと 3,000 万足せば小・中学生の医療費はゼロにできるといったことを、ぜひ実現する。宇美町は子どもの医療費がゼロなのか、じゃあ引越そうかという気持ちになるのではないか。そういうことで、ぜひその辺りをしっかり書く。書いたらやらなくてはいけないといったところをしっかりと明示するというのが必要ではないか、例えばの話だが、といったことをご指摘させていただきたいと思う。
- また、これから 8 年間のうちに必ずやらなければいけないというのは、やはり教育総合支援センターハピネスの改修である。絶対に避けて通れない。ここに子ども達の子育て支援の施設辺りを集約化しますといったところをしっかりと書いておかないと方向がぶれてしまうのではないかと思う。ぜひそういったところもしっかり明示して、ハピネスの今後のあり方というものを書いておく。そこが必要ではないかと思う。
- あとは病児保育のことが続いているが、病児保育の利用者促進、それが安心・安全な子育てにつながるのではないかと思うので、ぜひそういったところの充実そして広域連携といったところを、この取組の中でしっかりと書いておくということが大事ではないかと思う。
- もう 1 点、これは実現できるかどうか分からないが、4 月 1 日時点の待機児童ゼロは今実現で

きている。ただ、9月くらいの時期になると待機児童がどうしても出てくる。これは致し方ないかと思うが、この辺りをまちの保育施設、町立の保育園では調整しながら、年間を通した待機児童ゼロの実現を目指しますなど、それぐらいやっていいのではないか。それぐらいやらないと子育てしやすいまち宇美ですよというのが言えないのではないかというふうに思う。1丁目1番地の施策なので、そこは何とか力を入れてやっていく。ここにやはり見て宇美町に来ようかと思う方がおられると思う。(委員)

- 目玉となるものがほしい、一定の方向性を示す書きっぷりにしてほしい、これはごもっともかと思っている。他方で、私は個人的に全般的にここの書き方は古くさいと思っている。例えば千葉県流山市は「母になるなら流山」というキャッチフレーズでやっている。これは「子育てするなら流山」とするところを、「母になるなら流山」としている。これは何かというと女性は子どもを産む装置で子どもが大事なのだということになってしまう。おかしいのではないかと、母というのは母であっても1人の女性として働き続けることができたりして輝いたりするという、単に子どもというだけではなく、ここに来たらそのようにいろいろな、女性としてもハッピーだ。子どももハッピーだというメッセージが込められていて、人がたくさん来ているということがある。

子育てで医療費ゼロはあちこちでやっていて、最初の頃は結構人が集まったが、やはりどこもかしこも同じようなことを始めてしまったので飽和状態である。だから、どちらかというところという負担軽減的なものよりも、個性あふれるものが必要。例えば豊後高田市があるが、あそこは医療費などをかなり軽減しているが、別に軽減しているだけではなく個性あふれる子育ての仕組みがある。そういうところを真似してほしいという感じがある。やはりお金の部分でやってしまったりすると、結局最後はどれだけ税金を投入するかという話になってしまう。

あと、全般的にやはり「このまちがいい。」という「が」いいという、そこを意識していただきたいということと、柱だけこれまでやっていることを並べている部分が非常に大きい。参考までに朝来市の総合計画を配布させていただいた。これはまず将来像が「人と人がつながり 幸せが循環するまち ～ 対話で拓く朝来市の未来～」とかなり個性的なものだが、それを作っていくために、開いていただくと、次の6つのまちの姿を目指しますとある。

この基本目標はこういうまちの姿を実現しますというものがここに出ている。この6つのまちの姿が宇美町らしい個性がそこに具現化されていなければいけない。そして、そのまちの姿を実現するために、この下に例えば「やりたい」につながる多様な学びで、未来をつくる「人」を育むというまちの姿があって、その下にこれを実現するためにシビックプライドと未来をつくる力を育む人材育成の充実や生きる力を育む幼児教育・学校教育の推進といった形で、その姿を実現するためにはこれとこれとこれが必要だという作りになっている。

さらに、各指標もここに例えばシビックプライドと未来をつくる力を育む人材育成の充実に着目して、これを測定するための指標が出てくる。ところが、今の作りというのは全くそうなくて、既存の事業がいわば並べられていて、かなり恣意的にというか指標がありそうなもの、取れそうなものを指標として恣意的にピックアップしていて体系ではない。むしろ指標というのは朝来市でいうところのシビックプライドと未来を作る力を育む人材育成の充実など、それぞれの項目にそれを指し示す指標をピックアップしなければいけない。さらに、恐らくこういったシビックプライドと未来を作る人材育成の充実というのは、実際にはいろいろな事務事業を組み合わせることで実現できるから、その先の事務事業評価というものが大事になってくる。

以前も申しあげたことだが、やはり宇美町はまだ事務事業評価をきちんとやっていないので、事務事業評価でやるべきことと総合計画で測定すべき指標の話がかなり混在していて、そこはやはりもう少し整理しなければいけない。それでいうと、本当はこの基本目標⑥のところで掲げられているとおりに、事務事業評価をきちんと入れていくということを正面から入れていただき、もう少しこの指標はあるべき姿を実現するために必要な事柄をきちんと挙げていただき、それに基づく指標をピックアップしていただくということが大事なのではないかと、個人的には思っている次第である。(会長)

- 23ページのグラフだが、子育てを楽しんでいると感じない保護者の割合が、3割がやはり不満足である。その不満足を解消するのに、24ページ、25ページにその施策が出てきているかといえばグラフのみかと思う。そういった意味で、例えば子育て支援センターの改築をする時に、改修をするとともに相談体制というか、いつでもどこでも保護者などの相談を受けられるような仕組みを新しく作っていくという発想に立たないといけないのかと思う。

例えば糟屋郡内で去年ある町で子どもの餓死事件があったし、数年前はお母さんが子どもを殴るといったことがある。あれはどこでも起きると思う。その立場でいけば、やはり25ページの右上の相談体制というか、建物も含めてリニューアルする。そこで親が安心して、町外の人に宇美町は安心できる、孤立しないといった発信をしていけばと思う。

もう1つは、民生委員さん、児童委員のことがここに入ってきていない。総合などという言葉があるが、やはり子育て支援を支えているボランティアの民生委員さん、児童委員さんと共働したとかいうことを入れて、やはりたくさんの方が誇りを持つような見せ方をすることが大事かと思った。(委員)

- 貴重なご指摘をいただいた。つながっていないのはご指摘のとおりで、やはりまず課題が挙げられているのであればそれに対して、今現在こうなのだから結局今までの施策が不十分だということである。ではこれまでの施策が何が不十分でどうするのかということが本当は総合計画に書かれるべきである。

ところが、この今やっていることを書いてより充実させますという感じが全般的に多い。そうではない。繰り返すが、あるべき姿を描いて現状とのギャップを見て、ではそのギャップをどう埋めるかが今回の施策である。そのギャップを埋める方法はやはりなかなか、普段の業務をやっているだけでは思い付かない。だから他の自治体でどのようにやっているのかをそこで初めて勉強して分かる。

子育て施設の話が出ていたので申しあげると、例えば幾つかの自治体では図書館を中心に子育て施設を入れ込んでいって、図書館は実は一番町民、市民が利用しやすい場所である。そこに青少年向けの施設と子育て系の施設といろいろ複合させることによって、まとまりやすくしていく。そこで図書館が1つの媒体となって、お母さん方のつながりを作っていくというようなことをやっているところが幾つかある。

そうすると、施設のあり方も単にセンターを新築するということではなく、組織の連携を図っていくというようなことがとても大事で、やはり施設を作った後そういった連携を深めていく。塩尻市が香川県にあるが、あそこに「えんぱーく」という図書館施設があり、そこなどはそういう形である。やはり何かそういう、総合計画というのはまさに普段考えないあるべき姿と現状と

のギャップをどう埋めるかを考えて、これまでの施策を改めていくという機会であればいけない。

そこはやはり全般的に欠けていて、これまでのものを反映してしまっているという根本的な問題があると思う。(会長)

- 子育て支援センターに対する多くの方の声で多いのが、遊び場が欲しいというところである。遊び場的な、児童館的なところがたくさんあったほうがいいというところで、児童館という建物を造るのはもう予算もかかるし大変だが、やはり遊び場で、親子で自由に行けたりといった場所が、いろいろなどころにあるという……。公園も、実は隣町や他の市町に行って遊ぶという人が多い。でも、近くにあるというのはいいことだが、歩いてでも行けるような憩いの場所があったほうが宇美町がいいとなるので、やはり、孤立しないで本人がちょっと行けたりする拠点がある、相談ができるということもうれしいが、本当に生活の中で日常的に家族で遊びに安心して行ける場所があったり声をかけてくれる人たちがいたりというところで、やはり求めているところは結局そこかと思う。(副会長)
- そういった現場の声がある中で、そういったものは入ってきていない。(会長)
- アンケートでも遊び場というのは出ている。(副会長)
- やはり何度も申しあげたように、行政で今やっていることを起点として考えるのではなく、あるべき姿や住民の声をベースにしながら、そこにどう向き合っていくのかというか。あるべき姿をどう実現していくのかという、その思考パターンで考えていただく必要がある。この前期実践計画の部分はもう1回再構築していただいたほうがいいのではないかと、全般的に、これまでの部分に関しては微修正という感じだったが、この部分に関してはもう少し、あるべき姿とのギャップをどう埋めていくのかという思考パターンで作り直していただくという方向が大事なのではないかという気がしている。それに沿って指標の設定の仕方も、もう少し、その姿を実現するうえでの施策の柱ごとに、それに関する満足度などを取っていただくというような、そのほうがいいのではないかと思う。

いかがか。23 ページや、要するに何がどの程度必要か。あまりぶ厚くなればなるほど見なくなってしまう。SDGsなどは入れたいということは分かるが、例えば23 ページの下の宇美町の各施策に対する満足度・重要度散布図というものは必要なかどうか。(会長)
- なくてもいいかもしれない。先ほどの朝来市さんの総合計画概要版はシンプルでポイントが分かりやすいと思った。遊び場のことを言ったが、幼児で今コロナ禍で遊び場を親子の中で話して、一本松公園の川沿いなどのベンチなどに座ったり川遊びをしたりという開拓を皆さん独自でされている。なので宇美町もたくさん遊び場があると書いて、そういう写真もうれしいし、イメージがしやすいという計画のものだといい。それが、皆さんが言うようにわくわくするような端的に分かりやすくなっていて、みんなの合言葉もいいと思う。言葉とはすごく大事だと思う。癒やされたり元気になったり、声を掛ければいいのだというところで、そういう言葉掛け一つでパワーが出てくると思うので、面白い作りしてほしい。(副会長)
- 朝来市さんの合言葉は、元々がやはり総合計画といった場合に作り込んだものである。行政計画としての総合計画と、行政計画と住民計画としての全部合わせた総合計画、従って朝来市は後者の取組だが住民の行動計画を具体的に考えて、このようなことをやっていきたいと思いますというのは

少しハードルが高すぎるから、でも何か動かなくてはいけないということで、ハードルがそれほど高くないところから始めていこうということでこの合言葉ということ考えたようである。

これはやはり住民に負担をかけることなく住民に動いていただく、一緒にやってみましょうという朝来市の姿勢だろうと思う。(会長)

- 宇美町でもあいさつに力を入れている。(副会長)
- 朝来市総合計画概要版の右側の5、6、7などはこういうものがお互いに声を掛け合っていくと町全体の熱が高まっていく。(会長)

- 私の印象を述べさせてもらう。宇美町の目指す姿というのが、すごく簡素化されて見やすくなってきているにもかかわらず、実践計画の部分を見たら文字がいっぱいである。それとやはり行政の方達は多分予算の裏付けがないとどこまで踏み込んで書いていいのかというようなことなどを思っておられるので、どうしてもこのような書きぶりになるのかと、ちょっとそちら寄りになってしまって読んでしまった。

それと私は宇美町で元々生まれ育っていなかったのが、宇美町に来て、今宇美町とはどのような町かと思った時に、自分の宇美町の住みよさという点は自然がある、それと病院が近い、習い事などが簡単にできる場所があるなどと思っていたら結構ちょうどいいまちだと思った。けれども、その時に先生がとがった部分と言われた時にどこがそうかなと思ったら、とがった部分がないので、今あるものをとがらさないといけないのだろうと思った。その時に、今あるものとがらせるならどうとがらせたらいいのだろうと思った。そこが考えどころなのではないかと思った。ちょうどいいまちというのは本当にすてきなことで、住む人にとっては最適な場所であるにもかかわらず、だからこそ住んでいてぼんやり住んでいるところがある。何かとがったところがあれば本当に「このまちがいい。」になっていくのだろうと感じた。(委員)

- ご指摘のとおりだと思う。全体がやはりここ(実践計画)に入ると途端に文字数が多くなってこれまでどおりというか。ここをもう少し、朝来市の総合計画の本体を見ていただいても、本体も62ページでかなり各項目もシンプルに見やすく作っている。こういうものを参考にしていたきながら、今現在この現状と課題の部分などもどうなのだろうか。むしろ大事なことはあるべき姿と現状とギャップがあって、なぜそうなっているのかという分析が必要である。

どちらかという今の書き方はこのようなことをやって頑張っています的な感じで、PR的に書いているが、そんなものは要らないのではないか。総合計画とは、やはりあるべき姿を実現するためのものなので、むしろ現状と課題のところというのはそこまで具体例を書くことはなく、あるべき姿の中で実現できていないものがどこに課題があるかということを端的に書けばいいのではないか。

そして、なすべきことというのはその右側に取り組むべき事柄が出てくると、結局この現状と課題が今やっていることを中心に書かれていて、取組も基本的には現状でやっていることを書いているということなので、あまりあるべき姿へキャッチアップしていくという感じではない。そこがやはり大きな課題かと思っている。どこをとんがらせるかというのは、それぞれ全部柱ごとにありうると思う。

例えば、これは以前も申しあげたが、雲南市の地域おせっかい会議というものをご紹介したか忘れてしまったが、要するにこれは地域ごとにあのお母さんは実は編み物がすごく得意で、だけ

ど自分では作っているけど全然しまったまま終わってしまっている。あれを展示してあげたらみんなおばあちゃんのすごさが分かるしいいのではないかというような、だったら実は私もそういうことをやっているから追加したいと、そういう形で誰かにちょっとしたおせっかいをしてあげて叶えさせてあげる。そういうことを繰り返していくと地域がつながってくる。そしてますます市民が楽しくなったりして健康にもなっていく。

だからやはり健康というものは、単に健康に気を付けてやっていきましょうということではなく、地域のつながりを通じて健康を実現する。その中に人と人とのつながりが温かいという宇美町の強みを生かしていく、そのような形で平坦な健康づくり——医療や福祉などといったもので健康になりましょうということではないあり方も、本当はできるような気がする。そういう点でいうと少しやはり、これは仕方がないが全般的に縦割りである。こちらの朝来市のものを見ていただくと分かるが、結構ばらばらである。

朝来市の「6つのまちの姿を目指します。」の5つ目「市民の暮らしを支える安全・安心な都市基盤を持続する」、この1番目に出てきているのは「自然を守り暮らしと産業を創造する土地利用の推進」ということである。そのように土地利用系の話と災害の話と交通安全と上下水道など、横断的である。やはりむしろ横断的な、物事を考えていく時は行政は縦割りで動いているわけではないから、やはりあるべき姿を描いていった時の事業というのは多分複数の課にまたがるような事業でなければおかし。そこをやはり今の宇美町の括りは基本的には縦割りで作っているという感じがある。もっと、今申しあげたとんがるためには包含的でなければいけない。とんがるには横断的になってつながって行って、これが現存ではない発想で考えていかなければいけないのだと思う。(会長)

- 10ページのまちの将来人口について、将来にわたって令和3年のデータですが30,809人という数字に減っている。将来の人口というのは出生率で変わってくるかと思うが、日本全国から見れば九州は出生率は高い。ベスト10に5つくらい入っているという状況である。そして県別の出生率ランキングよりも糟屋郡内で見るとどうなのか。宇美町で見ると出生率は2012年のデータだが1.45、糟屋郡内でいえば一番最低のようである。これはデータが古いが、同じ郡内に競争相手がいる。みんないいところだからみんなライバルだろうと思うし、粕屋町辺りなども見て17.2を越しているというデータが出ている。

ここで実践計画や支援活動といったものは課題として取組が発表されているが、過去を振り返ってみたら戦後ベビーブームというのが第一で、その後そのベビーブームの子ども達が成人になり、第2次のベビーブームを起こした。第3次のベビーブームというのではない。(委員)
- 第3次ベビーブームは結局起こらなかった。第2次ベビーブーム世代の人が、結局その世代が第3次を作れなかった。(会長)
- 他町とここが違うというものを書き出しされたいかと思う。実践計画を計画どおりに実践されると効果があるが、現実には難しい。第3次ベビーブームのような、ぜひ将来にわたって、出生率を上げることによって人口増というところを目指したい。都市部に行けば出生率がかなり下がる。福岡県も宇美町もそうかと思うが、人口をぜひ、上がったらいいなと思う。(委員)
- 今のご指摘でいうと、やはり子育て支援というところが、子どもを産みたいと思えるようなレベルにまで達せるようなものなのか。他の近隣のところと比べると出生率が少ないということは、

まだ宇美町の子育て支援策や子どもを育てたいという環境整備なども十分ではないのではないかと思う。今のご指摘も含めながら、いまひとつやはり「このまちがいい。」という、そこをもう少し磨いていただく必要性が一般的にあるのかという気がしている。(会長)

- スポーツ・文化活動の推進だが、3番目に「スポーツによる地域活性化」、「価値観の多様化や社会の変化により、地域のつながりの希薄化が課題となっています。」とある。そこに町民球技大会というものがあるが、いろいろな事情で、バレーボールやソフトボール大会などが中止になっている。主体は何かというと、いわゆる軽スポーツ。子どもからお年寄りまでできる軽スポーツを中心に今、町のスポーツ活動を支えているわけだが、実は若い人達がやはり以前のようにソフトボールやバレーボールに参加したいという声が高い。やはり若い人の活性化を図るためにぜひ再度実施してくださいということで、実は8月に各自治会にアンケートを出され、それを提出してまとめたと思う。やはりこういうことで若い人達がもう一度やりたいと言われているバレーボールやソフトボールというものを、ぜひ実施していただけないかと思っているので、社会教育課によりしくお伝えいただきたい。(委員)
- 今の言葉をより広くいうと、やはり若者のスポーツだけではなく地域活動全般がこの中で非常に抑制的になってしまって、抑制した状態がなかなか元に戻らない状況が少し生じている。なので、そこはやはりコロナ禍、ポストコロナというかアフターコロナというか。そういう中でもう1回そういった地域の活動の活性化のためにやっていくといったことはあってもいいかもしれない。(会長)
- 町民の方の町政への参画という点でお話しさせていただいたが、朝来市のみんなの合言葉、この資料の一番下にあるが、やはり町民の方が町政へ参画するということが一番簡単に分かりやすい構成の仕方だと思う。もっとポップな表現というものもあってもいいのかと思う。(委員)
- パンフレットでもいいと思う。(会長)
- 例えば合言葉の合の字を愛情の愛に変えるなどである。(委員)
- 青少年育成町民会議でいうところがあって、あいさつ・声かけ運動などに力を入れてきている。各コミュニティや各自治体でのあいさつや声かけ運動というのは、当たり前のように宇美町でやってきているいいところだと思う。そういうところでもう少し柔らかい表現で、何か届きやすい表現で町民に届いたほうが、朝来市さんのようにダイレクトでくる。ちょっとお疲れさまと言おうかというようなところで、それで、やはり子育てしやすいまちかどうかというのは、例えば役場に行き、役場に一緒に並んでいた人が声をかけてくれるだとか、そういう声かけが一つあるだけですごくありがたかったりする。役場の方だけではなく町民の方が、ここに座る?とか、ちょっとベビーカーをこちらに寄せておこうかといったことで住みやすいと感じる。そういう側面はとても大事かと思うので、この言葉のところを合言葉だとかこういうものはいいかと思う。(副会長)
- ただいまお2人から強いご意見が出たので、ぜひこの計画の中で付録的な形で、これに近いようなものを考えていっていければということで、ぜひご検討いただければと思う。本当に、誰かが見てくれている、見守ってくれているという、それがすごく安心感や幸せ、幸福感につながっていく。(会長)

全国学力・学習状況調査が何点と 27 ページに載っている。これについてもよその市町村の計画を見たが、こういったことはどこも載せていない。ここでいえば、学力を測る時に全国平均と書いてある。ここについては載せないほうがむしろいいと思うし、今はこの各市町村ごとの学力テストの結果が県教育委員会のホームページで見せている。それを見ると、宇美町が逆に居場がないからここはもう少しほかす。それでいうと朝来市の仕事はとていい。1 ページに市民一人ひとりの幸せとある。こういうところを基盤として例えば学校教育の充実のところに学校に行けば楽しいと思うかというところもアピールが少ないか、あるいは普通だと思う。そして、日本の子どもの幸福度は 38 位中 37 位である。だから学校に行くのが楽しい、では幸せかといったら言えないのだと思ったら、幸せというのはやはり家庭や地位なども普通の形の幸せであるから、学校が楽しいというのはとていいと思うが、それだけでは町民の育成というものは推し量れない。

将来的にはコンパクトにまとめていくのか、もう突っ込むところをずっと作ってそれに理由付けをしていきながら文面を作るのか、それは早いうちに決めておいたほうがいいと思った。(委員)

- あまり細かく作ってしまうとそこで止まってしまうということがあり、私としてはやはりあまりぶ厚く作るというよりはむしろきちんとあるべき姿とのギャップを書いて、そこを組み替えていくような足掛かりを作っていく。そして、基本的に事務事業レベルを変えていかないと物事は変わっていかない。そのことをここに書き込むととても大変だし、一朝一夕にできない。なので、ある程度ここは大きなことを書いておいて大まかな部分を書いておくというのがいいのではないかと、個人的には思っている。その中で一定の方向性を示すというメリハリをしながらやっていったらいいかと思っている。(会長)
  
- 宇美町の学校の課題は何かと思ったら不登校が多い、とても多い。ここを何とか手だてしていくとすれば、もちろん学力の向上等にもしっかり結び付くと思う。平均などはすぐにぼんと上に上がるのではないかと思っている。この不登校に対する書き方で、今後新たな不登校を生み出さない云々と書いてある。新たな不登校を生み出さないということも大事だが、今の不登校の子達に対するケアをどうしていくのかといったところをやはりきちんと捉えていないと、解決しないと思う。27 ページの上のほうに教育相談室やスクールソーシャルワーカーの連携を強めて支援体制を効果的に進めますではなく、やはりきちんと人員を入れる。人しかいない、ソーシャルワーカーというのが圧倒的に足りていない。そういったところを一つひとつ、僕はやはりきちっと詰めていく必要があるのではないかと思っている。

それと、今中学校で一番問題なのは部活動である。部活動の地域移行のことは一言も書いていない。これからのものすごく大きな課題となって横たわっているものに対して、全然やらないのか。そこをまずやらないといけないということを 1 回指摘しておきたいと思う。ちゃんと、しっかり捉えて、この課題の解決に向けて何をやるかということを確認に打ち出す。それがこの実践計画のほうに、しっかりやっていただきたいと思う。

また、学校の施設の改修などでもいっぺんにやらないといけないのはトイレの改修である。くさいトイレがあったら学校に行きたくなくなる。そういったところもしっかり明記しておく必要がある。それと指標のところでもいわれたが、4 年たってこの学力が 20 ポイント向上した。それが

ほとんど、4年ぶりに何も変わらない。この全国平均というのは福岡都市圏で一番低い数字である。4年後の目標が福岡都市圏で一番低い学力、これでいいのかということをもう1回学校教育にはしっかり伝えてほしいと思う。せめて全国平均10ポイント上回るくらいの高い目標を立てて、その姿を描きながら事業を構築していく。このことを書いておかなかったらこの実践計画は何もならない。ぜひそこはもう1回突き詰めていただきたいと思っている。(委員)

- 28ページの学びの環境整備、中央公民館と住民福祉センターは改修が終わっている。そういったところもしっかり踏まえて書かないと、これから住民センターの改築や中央公民館の改築をやるのか、やっている。トイレの改修も今回やるといったところをしっかりと踏まえておかないといけないのと、特に指標のところで一昨年2,000万以上かけて電子書籍を入れている。その貸出冊数が4年後に1万冊というのは、また低い数字を挙げている。これは何だと言いたくなる。そこはちゃんとお金をしっかり入れてやっているのだから、せめて2万冊や5万冊やっていく、それに選定をしていくといったことを、ちゃんと取り組んでいただけたらと思っている。  
また、28、29ページにある宇美町生涯学習の拠点施設となっているし〜ず・うみのことが一言も書いていない。これから8年のうちに必ず施設の改修をやらなければいけない。その時の指標というか、どのような施設に改修していくのかというのが見えてこない、何をどのようにやるのかというのが分からないのではないか。(委員)
- 考え方の問題だが、総合計画でそこまで個別具体的な政策の細かなところを書くことは普通はしない。(会長)
- これは行政の話で、その時に予算取りなどをやっている。その時にここにきちんと書いてあるということがその裏付けになってくる。だからこそわざわざ書いている。去年はそういう書き方だった。ぼんやりした計画で具体的なことを書かないというのはいいのか。(委員)
- 本当は事務事業までぶら下げるべきである。だが、それは事務事業を組み替えたうえで書くべきである。そして今回事務事業の組み替えの時間がないという状況の中で、やはり一定の方向性を留めて前期の間の数年間で事務事業の見直しに向かっていくことができる状態にしておくことが必要で、今回やはりあまりにも時間がない。そうすると結局予算取りのための計画になってしまう。(会長)
- そういうことも大事な視点ではないか。(委員)
- ここに書かれたことは絶対にやる、それはもちろんそうである。ではその個別具体的な方向性の細かい部分ばかり書いてしまうと、やはりそれは逆に縛ってしまいすぎるのではないか。(会長)
- 個別具体的にいろいろ書いている。そして、ここには書いていてこちらのページには書いていないということが全然違う、レベルが。それを統一するなら統一するのでもいいが、そこははっきりさせないといけない。(委員)
- そうである。おっしゃるとおりで、だから基本的なイメージというのはこの朝来市的な感じだと思う、今回狙うべきは。(会長)
- そこはちゃんとまちづくり課が、最初に出してくる時にきちんと擦り合わせをやって行わなければいけない。だから長々とこういった議論をずっと続けるわけで、こちらには細かいところを書いている。こちらはぺらぺらの内容である。(委員)
- おっしゃるとおりなので、そこはやはりもう少し統一感を示さないといけないと思う。この実践

計画の部分はいま一度全般的に見直しを図っていただくということは必要なのではないか。一方で、ここの部分は方向性を書いておかないとまずいというのはあると思う、要所要所で。ここまで書きすぎてしまうと柔軟性がなくなってってしまうということもあるのでそのバランスは非常に難しいところがあるが、もう少しあるべき姿から分解していくという思考パターンでないといけないと思う。今やっていることを前提として今やっていることの積み重ねでやってしまうと、これまでどおりの傾向になってしまう。そこはちょっとお考えいただければと思う。

私の進行が悪くて実践計画 4~6 の審議の時間がほとんどないので、これはもしかしたら次回のほうがいいか。(会長)

- もう 1 回しっかり練って案を出していただかないと話が進まない。ちゃんと各課としっかり打ち合わせを綿密に行って方向性をしっかり出すことをやっていただきたいと思う。(委員)
- なかなかやはりこれまでの総合計画のイメージで全体が動いていて、今回それとは違った形で作っていかうということなので、なかなかその擦り合わせは難しいところがあるかと思うが、ようやく一定の方向性ができてきたので、ぜひ全般的な直しを図っていただけるとよろしいかと思っている。

やはり今の 24 ページに入ってきた途端に急に文字数が多くなってしまっているの、なすべきことを明確に言っていく。そしてやはりここの部分については明確に言うべきではないかということがありえるので、そういう判断ができるようなくらいの感で出していただくということが大事かと思っている。(会長)

- 未来や希望などいろいろあるが、計画そのものは絵に描いた餅になりつつあるのではないかという意見が見える。だから現状の姿というものをもう少し見詰めたらどうか。現在コミュニティとしてスーパーは 1 軒もない。この宇美町そのものにラーメン屋が何軒あるかご存じか。小さなラーメン屋が 6 軒しかない。その中で大きな計画を立てようという発案はいいが、よくよく考えてみると空港は近い、高速道路は近い。それに博多の町にはすぐ隣接しているような状況にあるこの宇美町というのを、もう少し現実を見て考えていけるのではないかと思う。絵に描いた餅になりつつあるところが多く見える。(委員)
- 絵に描いた餅になってしまうのは、やはりあるべき姿と現状とのギャップがきちんと把握されて、そのギャップをどう埋めていくかという思考パターンになっていないからである。結局これまでの総合計画はほとんどそうだが、今やっていることを書けばいいといった具合で、やはり予算取りのために文言を入れておいて目標だけ立派なものとなってくると、これまでどおりやるだけだから一向に目標が実現できないという話になってしまう。だからあるべき姿を実現するためにはいったい何が必要で、現状とのギャップはどうあって、そこをどう埋めていくのかということが本当は各基本目標としてきちんと定められなければいけないという、その構造だと思う。その時に現状をきちんと把握するという作業が不可欠で、あるべき姿と現状とのギャップを意識してやっていかなければいけないということかと思う。今現在の作りというのはこれまでどおりにやるのが中心で書かれているから、やはりどれほど「このまちがいい。」 私たちの誇り 宇美と言ったってそうならないではないかというのは、そのとおりだと思うので、その再構築をぜひお願いできればと思っている。

私の不手際で時間が延びてしまったが、特にご意見等あるか。よろしいか。それでは本日の議

事は全てこれで終了した。また次回以降ぜひご議論をよろしくお願ひしたい。なお、事務局のほうにお返しする。(会長)

#### 4. 閉会あいさつ

---

- ➔ 嶋田会長におかれましては議事進行お礼申しあげる。委員の皆さま方におかれましては、活発なご意見を賜りお礼申しあげる。次回の開催は10月の26日水曜日、13時00分からとなっている。どうぞよろしくお願ひしたい。それではこれをもって第6回の総合計画審議会を終了させていただきます。

以上